

第1学年4組 社会科（地理的分野）学習指導案

場 所 1年4組教室

1. 日時

令和2年10月14日（水）第5校時

2. 単元名

世界の諸地域「ヨーロッパ州」

3. 単元の目標

◎ 社会に参画する市民として、ヨーロッパの持続的な経済の発展の方法や日本とヨーロッパとのよりよい関係(政治・経済的な友好)について考えたり、生活・文化面の交流を尊重しようとする態度を身に付けたりする。

【関心・意欲・態度】

◎ ヨーロッパが抱える地域的な課題を見だし、その解決に向けて多面的・多角的に考察・判断し、その過程や結果を適切に表現できるようになる。

【思考・判断・表現】

◎ ヨーロッパの地理的事象を正しく捉えるために諸資料を適切に調べたり、まとめたりする技能を身に付ける。【技能】

◎ ヨーロッパが地域としてまとまってきたこと、EU離脱などの問題が起きていることを理解する。【知識、理解】

4. 単元の評価規準

①社会的事象への関心・意欲・態度	・社会に参画する市民として、ヨーロッパの持続的な経済の発展の方法について考えようとしたり、日本とヨーロッパとのよりよい関係、生活・文化面の交流を尊重しようとする態度を身に付けたりしている。
②社会的な思考・判断・表現	・ヨーロッパが抱える地域的な課題を見だし、その解決に向けて多面的・多角的に考察・判断し、その過程や結果を適切に表現できている。
③資料活用の技能	・ヨーロッパの地理的事象を正しく捉えるために諸資料を適切に調べたり、まとめたりする技能を身に付けている。
③社会的事象についての知識、理解	・ヨーロッパが地域としてまとまってきたこと、EU離脱などの問題が起きていることを理解している。

5. 単元について

(1) 単元設定の趣旨

ヨーロッパ州は、多様な言語や宗教、生活習慣など文化の違いから多くの民族に分かれ、比較的狭い地域に多くの国が集まっている。また、ヨーロッパの国々は、15世紀から世界各地に植民地を獲得して国力をのばし国際的地位を高めていった。しかし、文化や考え方の違いから絶えず紛争を繰り返し、20世紀には2度の世界大戦の主な戦場となって大きな被害を受け、ヨーロッパ州の国々の国力は低下した。そのため、ヨーロッパの国々は、戦争を避けアメリカなどの大国に対抗するために、互いに協力して結び付きを強め欧州連合(EU)を結成し、地域統合を進めている。EU加盟国は増加し、国際的な発言力や競争力を回復させてきたが、EU域内では産業や生活の地域間格差が顕著となり、経済や貿易などでヨーロッパの国々に大きな影響を与えている。また近年、イギリスのEU離脱など、EUによる地域統合は紆余曲折が予想されている。一方で、2018年に締結した「日本・EU経済連携協定」など、今後も日本をはじめ国際社会におけるEUの動向から目が離せない状況である。地域統合の影響と課題について多面的・多角的に考察し追究することは、地理的な見方や考え方の基礎を培い、地域的特色や地域の課題を捉えさせる上で大変意義があると考えられる。

(2) 生徒の実態（略）

(3) 指導観

単元のはじめにはヨーロッパ州の気候や地形、農業、民族など地域的多様性について理解させる。次に、EUの目的や設立された背景、現在のEUについて学習する中で、EUに加盟していない国があることやイギリスがEUからの離脱を

決めたことから、国境をこえた結びつきによるさまざまな変化への関心を高め、EUの利点や問題点を追究しようとする意欲を高める。これまでもEUは「自由化」を進めることでEU圏内の産業を活性化させ、EU域外に対する「国際競争力の強化」を進めてきた。一方「規制」を進めることでEU圏内の「地域間格差の是正」を促し、EU全体としての政治的・経済的な安定を保ってきた。このようなEUへの参加による国境をこえた結びつきによる変化については、諸資料を活用して多岐にわたる諸政策を調べる活動をとおして理解を深めさせたい。その際、学校図書館を活用し、多くの書籍などから必要な情報を読み取る活動を設定することは、資料活用の技能をより高める上で有効であると考えられる。また、資料の選定において学校図書館司書と連携することで、多くの資料を準備し、EUの様々な面について、いろいろな立場から考えられるようにした。

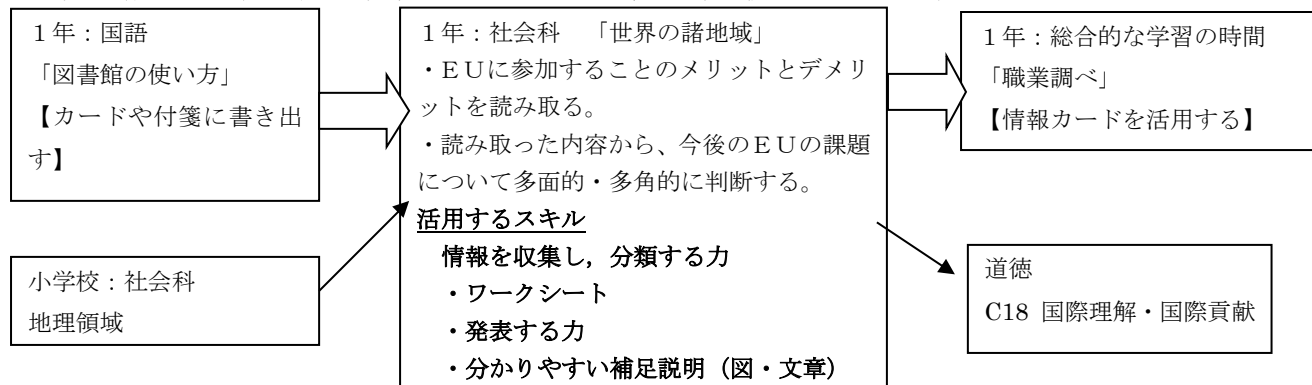
前時では、EUの諸政策について、これらの書籍などを読み取り、情報カードにメリットとデメリットをまとめることで、資料活用の技能を高めるとともに、本時の学習につながる活動になるようにした。

これを受け本時では、作成した情報カードをもとにグループで諸政策のメリット・デメリットについて話し合い、今後EUが優先すべき課題を順位づけすることで、思考を深め、自分なりに判断することで、地理的な見方、考え方の基礎を身に付けさせたい。

6. 単元指導計画（全6時間、本時は5／6）

	主な学習活動	時	評価規準（評価方法）	関心	思考	技能	知識
自然や農業	ヨーロッパ州を概観する。 ・地理的な特色（地形や気候） ・歴史と文化の多様性	1	・地形や気候の特色を正しくまとめている。（ノート） ・ヨーロッパの民族や文化の多様性に関心を持って取り組んでいる。	○			○
EU結成の成果と課題	ヨーロッパの文化の多様性と共通性を知る。	1	・ヨーロッパの民族や言語の多様性と共通性を正しくまとめている。（ノート）				○
	EU結成の目的を考える。		・ユーロを導入している国としていない国があることを資料から読み取っている。（ワークシート） ・EUの今後について「拡大」か「縮小」かを考え、説明している。（ワークシート）		○	○	
	EUへの参加のメリットとデメリットについて調べる。	2	・EU参加による影響について、資料から調べてメリットとデメリットをまとめている。（ワークシート）			○	
	EUの今後の課題について考え、判断する。 本時	1	・各班のまとめたメリットとデメリットから、今後のEUの課題をランキング形式で、多面的・多角的に考察・判断している。（発表・ワークシート）		○		
	ヨーロッパの学習をふりかえる	1	・前時までの学習から、ヨーロッパ州について「1時間レポート」にまとめられている。（レポート）		○		○

7. 単元構成モデル（⇒：学校図書館活用のスキルの流れ、→：教科横断的内容の流れ）



8. 本時の指導

(1) 目標：今後EUが重視して取り組むべきことを、資料をもとに考察、判断し、説明することができる。

【思考、判断、表現】

(2) 学習活動の展開

主な学習活動	教師の支援・留意点◇ 評価☆
<p>1 本時の学習課題と目標を確認する。 [一斉]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今後、EUが重視して取り組むべきことを考えてランキングにしよう。</p> </div> <p>2 EUについて、班ごとにまとめた内容を説明する。</p> <p>①通貨 ②生活 ③貿易 ④産業（農業・工業）</p> <p>3 EUが今後さらに重視して取り組むべきことを話し合い、ランキングにあらわす。 [学習班]</p> <p>「労働条件・生活環境の向上（格差をなくす）」 「通貨の統合」 「人・物・お金の自由な移動」 「産業の発展」</p> <p>4 ワークシートを基に、本時のまとめを行う。 [一斉]</p> <p>5 次時の内容を確認する。 [一斉]</p>	<p>◇単元をとおして考える学習課題を黒板に明記することで、生徒が思考しやすいようにする。</p> <p>◇生徒の予想をふりかえることで、生徒が本時の学習課題について考えやすいようにする。</p> <p>◇メリットとデメリットがあることを確認する。</p> <p>◇生徒が注目したポイントが適切でない場合、考えやすくなるようヒントを出す。</p> <p>◇必要に応じて、書画カメラを使って資料を提示できるようにする。</p> <p>◇発表の中で新たに疑問等が出てきた場合は、補足説明をするなどして、学びにつなげられるようにする。</p> <p>☆各班のまとめを資料に、学習課題について判断している。 (評価：発表・ワークシート)</p> <p>◇EU参加による「安全保障」「貨幣統一、出入国の制限緩和による経済発展」「格差の解消」「移民による失業者の増加と移民の排斥」「EU予算の負担」などのメリットとデメリットを多面的に踏まえて、参加国と不参加国、離脱国や豊かな国と貧しい国などの立場から多角的に判断できるようにする。</p> <p>◇他の地域や他の目的でつくられている国際組織についてふり返り、それぞれに成果と課題があることに気づかせる。</p> <p>◇EUと日本との間に結ばれた「経済協力協定」を紹介し、自分たちの生活との関わりを実感させ、今後の学習につなげる。</p>

(3) 評価

	十分満足できると判断される状況	おおむね満足できると判断される状況	支援を必要とする生徒と指導の手立て
評価 1	<p>・今後EUが重視して取り組むべきことについて、資料をもとに多面的・多角的に考え、説明している。</p>	<p>・今後EUが重視して取り組むべきことについて、資料をもとに考え、説明している。</p>	<p>・重視して取り組むべきことが決められない。 →学習課題を確認する。 →成果と課題を整理させる。 →班のメンバーと相談させる。</p> <p>・多面的・多角的な考察になっていない。 →他の視点や立場ではどうかを考えるよう促す。</p>

(4) 研究協議の視点

学校図書館を活用したことは、EUの成果と課題を理解し、考える上で効果的であったか。

9. 研究協議の概要

参加者	校内 11名, 校外 7名 計 18名
授業及び 研究協議 の概要	<p>〈授業の概要〉</p> <p>ヨーロッパ州の気候や農業など地域的多様性について学習し, EU の諸政策について資料を活用し, メリットとデメリットについて考え, 情報カードにまとめた。本時ではそれについてグループで話し合い, 優先すべき課題を見つけることで, EU の今後を考えることを目的とした。</p> <p>〈研究協議の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none">・EU の課題のうちどれが重要であるか, ランキングできないものにあえて順位をつけさせることで, 自分なりの考えをもって意見のぶつかり合いができた。考え方・伝え方の練習になった。・EU の資料が少ない中, 司書の尽力により準備することができた。生徒にとって日常生活とかけ離れた事柄を調べる時に, 資料活用の意味がある。今後, 本時で学習したことが, 役立ったり, 別のことと結びついたりしていくのでは。・知らないことについて話し合いはできないが, 資料を使うことで話し合いが可能になった。情報カードを使ったことも話し合いには良かった。